

令和5年度  
埋蔵文化財調査士補  
資格試験

小論文問題・答案用紙

次の設問から2問を選び、答案用紙に選択した問題番号を記入の上、それぞれ400字以内で記述しなさい。

- ① 発掘調査から報告書作成にいたる過程の情報処理において重要な点について述べなさい。
- ② 発掘された遺物は現場事務所や倉庫などに保管されることが多いが、木製品や金属製品およびその他の脆弱で劣化しやすい遺物を本格的な保存処理までのあいだ保管する場合の問題点と対策について以下の五つの言葉をすべて用いて400字以内で述べなさい（言葉の使用順序は問わないが、必ず使用箇所の下線を引くこと）。

仮保管マニュアル  
公開の機会

定期的チェックとケア  
遺跡固有の課題

劣化要因

- ③ 職場の熱中症予防対策について、5項目あげて説明してください。

受験番号	氏名	(選択番号)	

試験日：令和5年8月26日（土）

会場：「連合会館」東京・御茶ノ水

公益社団法人 日本文化財保護協会

① 発掘調査から報告書作成にいたる過程の情報処理において重要な点について述べなさい。  
例；以下のいずれかの言及していること。

- ・事前調査（情報収集）の重要性
- ・発掘調査過程の記録の重要性
- ・担当者以外の者が処理内容を再検証できるように各情報処理作業とその流れが見える化（文章、フローチャートや図形等を用いてわかりやすく目に見えるようにすること）すること
- ・目的と条件に適した情報処理の方法を選択すること
- ・遺跡の発掘報告書に掲載される情報は、埋蔵文化財分野以外の分野にも応用できること

②発掘された遺物は現場事務所や倉庫などに保管されることが多いが、木製品や金属製品およびその他の脆弱で劣化しやすい遺物を本格的な保存処理までのあいだ保管する場合の問題点と対策について以下の五つの言葉をすべて用いて400字以内で述べなさい（言葉の使用順序は問わないが、必ず使用箇所の下線を引くこと）。

仮保管マニュアル      定期的チェックとケア      劣化要因      公開の機会      遺跡固有の課題  
例：

一般的に出土木製品や金属製品等は発掘されると土中にあった時より急速に劣化が進むので、直ちに本格的な保存処理工程に入ることが望ましいが、多くの場合それは困難で、発掘・整理作業の進捗によっては数か月から数年にわたり仮保管状態が続くことも珍しくない。その間、定期的チェックとケアをする必要があるが、多忙を極める現場などでは後回しにされることが少なくないし、重要遺物になればなるほど現地説明会等での公開の機会も多くなり、ますます厳重な管理が難しくなる。そこで、前もってそれらの困難を見越した遺物の仮保管マニュアルを用意しておくべきである。マニュアルには遺物の種類別に水分・空気・微生物・振動といった警戒すべき劣化要因を挙げそれぞれについての対策を記す。また、人的要因によるトラブルの危険性と当該遺跡固有の課題（低湿地遺跡で木製品の大量出土が予想されるなど）、保管場所・容器の確保手順も挙げておくべきである。(399字)

③職場の熱中症予防対策について、5項目あげて説明してください

例：

- ① WBGT 値の低減対策を実施する。
- ② 水分や塩分の補給が出来るようにする。
- ③ 労働者の健康状態を確認する。
- ④ 作業服は透湿性及び通気性の良いもの、帽子は通気性の良いものを着用する。
- ⑤ 熱中症に対する労働衛生教育を実施する。